
to.be....

千崎 心刃

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

t o . b e e . . .

【Nコード】

N 6 7 7 3 H

【作者名】

千崎 心刃

【あらすじ】

小学生の心葉はゲーム好き。何時ものように公園でゲームをしていると誤った操作でゲームの中に入り込む。冒険をしてラスボス不倒すが此処で話は終わらない…いや此処からが始まりだったのだ、かって倒したはずのラスボスは………に、シンバの性格、人格は異世界に入ると逆転し、かつての仲間は………そして結末は………

く終わりの続きく（前書き）

拙い描写と流れ、字体、誤字、脱字多々多々あると思いますが、ストーリーと良い意味で期待を裏切る事をお約束します。ただ中々にひまがなく遅いかもかもしれませんのでご了承ください。

く終わりの続き

……闇の恐者は遂に膝をついた、すかさずサラの呪文、

「聖鳴る響き」が闇の恐者の動きを止める。

勇者は最後の力で聖剣を振りかざす…

『見事だ…勇者よ…』

闇の恐者は勇者の右手首に最後の力を振り絞り黒光を放つ…後、静かに崩れ落ちる…

「やったね!」

「やったぞ!」

サラとブランドがシンバに駆け寄る。

長い戦いであつた……

長い旅であつた…

王都に戻った一向は盛大な歓迎を受け、国王は膝を付き勇者の手を取り感謝の意を表す。

「勇者よ、ソナタはアーカイブ国の英雄である。」

旅の終わりを告げるあの音がする…

指図エンドテロップが流れている場面であろうか。

サラとブランドに別れを告げ僕は元の世界へと戻る事になるだろう

……終わつただ、僕の冒険と物語は…… t o . b e . ……
t o . b e . ……

気がつくとは僕は何時もの公園にいた…ああそうか…ゲームな僕は近頃発売されたゲーム機（ハードコア製）の END …あなたは勇者…と言うRPGをやっていた事を思い出す。

ラスボスで入力したコマンドがどう掛け違えたのか、

「心を見る」

「心を探る」

「心に願う」等という選択肢になり僕は全てを選択してみた、すると画面の光に吸い込まれ、ゲームの世界に入り込んだのだ。

何故かその状況に慌てる事なく物語に入り込む。何せクリアする所まで行ったゲームでありゲームでもある、自信も。

仲間を集め、情報を集め、ラスボスを倒す為の協力な呪文と武器を集め、レベルを上げる。基本RPGに組み込まれている要素であり、後はどう攻略して行くか。得てして感情移入できる面白さを含むゲームが面白く感じるものだが、そのまま自分「勇者」なのだ。

フラグたても強さも

「簡単だ」とわかつてはいたが、

「面白い」と感じる。

さてさて、冒険を楽しみクリアして、元の世界に戻るのだが心葉の物語は此処では終わらない…

… t o . b e … なのだから…

（放課後の屋上は気持ち良い…）校舎の裏手にある小高い山と海が近いせいで海風が山に当たる地域、蝉が五月蠅く鳴く季節だが涼しい風を運んで来る。心葉のお気に入りの場所である …… あれから何年たったのであるう、僕は高校生になり、あの頃を思い出す…夢のような世界…回りには話せない、話した所で変人扱いされるのがオチである。…… ただラスボスから握られた右手の痣だけは夢ではなかった事を知っている…

ただでさえ何か陰を纏った自分には親友と呼べる友達がない？ ような気がする。小さい頃に受けた傷がトラウマとなって人との関係を薄くさせるのだ。

だからなのだろう、ゲームの中に入り込みその中でしか自分を見出だせない。そんな環境を自分で作っていった。

しかし来年は卒業である、このまま何となく就職して、結婚なんてしないだろうなく、適当に人生送るんだろうなく。夢も希望もない、消極的思考。極マイナス思考型である。

あいつも変わらず僕はゲームをやっている…

あの日の出来事がまた来るのではと思いつつ…しかし現実が変わらず、最近のゲームは面白くないなくと思いつつながらも新作がでたら買っている。

(今日は何しよう…)

休みの日は何時もこれから始まるのだが結局は何もする事がないのでゲームしかない。

とりあえず昨日一本クリアしたので新しいのを買いに行くか、と寮を後にする。

住んでいる所が田舎なので3つ駅を過ぎた街へと足を運ぶ、馴染みのショップに行っても新しいゲームはやり尽くしているので中古ショップに足を運んでみる。まあ大概はやってしまっているが堀だし物がないかと物色してみる。

「あ」から始まり全部を見る癖は

「堀だし物」を見落とさない為の何時もの行動である。

ツーツと指と目で追いながら「か行」「さ行」「た行」へと指し掛かる…

ん？海賊盤？そう、それはまだ小学生だった頃にやったあのt o .

be… の続編である。

何故海賊盤という続編がある終わりかたをしたにも拘わらず会社

が倒産してしまったのだ。攻略本やゲーム情報誌もみているので、これの続編は出ないはずである。もし他ゲーム会社が引き継ぎ続編を出しているなら情報誌のチェックから漏らす事はないはず、それに 何だろう？読めそうな暗号のような…

とりあえず内容はさて置き買う事にする。

電車のなかで説明書を見る、当たり前だか操作方法、ポイント等が書かれているだけ、ただ が気になりはするのだが、まあやってみればわかるだろうと深く考えない事にする。

1話、あの日をもう一度、

さてと、自宅近くの何時もの公園へと足を運びソフトを入れる…

前書きが流れしばしその内容に浸る。

時は前大戦から5年後…

「はやっ」と思いながら粗筋を読んでいく。

平穩に思えた日常に変化が訪れる…勇者だった主人公への糾弾、

「何故に？」

（それは現世界にもある人間模様でもあるのだが…）王家、王族らは平穩の世の中に勇者を必要とせず、あろう事か民衆の英雄となった勇者達を妬ましく思い、王家の威信と自己保身の為勇者達を落とすしめる画策をしたのだ。

サラ、ブランドにはあらぬ濡れ衣を被せ投獄し勇者にはその妻を魔女の類いによりみせしめの火あぶりとし、魔女を匿った罪として勇者へは見つけ次第生死を問わず王宮へ連れて来るようお触れが出された…

……

…ぶっ飛び過ぎてない？無茶苦茶だよ〜どんだけ話こじつけ合わせてるの？

ひょっとして…（クソゲーパターン？）

まあ、そんなこんなでゲームは始まる、勇者の逃亡から…トホホである…

勇者の目的は王家への復讐？だったらお城に単身乗り込んで行っても大丈夫だろ、何せ勇者と言う位反則的な強さを持っているんだろ？あゝこの展開は王族が魔物から体に乗っ取られて…とか話の筋を

想像しながら、レベルを上げて行く。
お城や周辺の町には近づけないみたいなので遠方の町を回りながら
情報収集とレベル上げ、武器を買い替えて行く。

とある町で王宮に一月前に異変が起きていた事を聞く（ほらほら予
想通りの展開に入ってきたな）

旅の商人が王様へ珍しい献上品を持ち込み謁見したはずだが、城か
ら戻って来てない事を同じ商人仲間から聞いた。

その後、税率の引き上げや魔女狩りにより若い村娘が王宮へ連れて
行かれる等の悪政が続いている事。最終目的は体に乗つとられた国
王を倒す…で終わりか、ん…仲間は？

（どうもクソゲーっぽい）とりあえず僕は3日という無駄に思える
期間をかけ単身城へと乗り込む。

途中中間ボスキャラなど数体出てきたが、何時もレベルをとことん
上げるタイプなので難無く粉碎していく。

そして最後の扉の前でセーブし扉を開けた…

ん…？何とそこには投獄されていたはずのサラとブランドが、その
下には国王が息もなく横たわっている。（遅かったわね。）

（終わったぜ…）

勇者はア然として二人の話を聞く事にした。

二人は投獄されていたが牢番の隙をつき脱獄し国王が魔物に乗つと
られた事を知ると勇者を探しながら此処まで辿りついた、しかし勇
者より早くついてしまい、現在にいたる。

町は平和を取り戻し、勇者達はまた英雄として語り継がれる…

エンドテロップが流れる…

は（怒）？何？終わり？うそだろ…

最後までみたが t o . b e .

で画面は静止する。

僕は思わずゲーム機ごと地面に叩きつけたくなる衝動にかられた…
無駄な時間を費やした事に気付き公園を後にする。

(ただいま)

(お帰り、ちようどご飯だから食べなさい。)

母さんはこっちを見る事なくテーブルに料理を運んでいた…

食事を終え二階の部屋につくと、ベットへと向かった。何時もはベットの所でゲームを取り出すのだが、先ほど公園でクリアしてしまいうる気にもならずにうとうととしてしまっていた… “…もうすぐだ……”

“再び時は来た…汝を必要とする…”

“…扉を開けるのだ……”

「ガバツ…」

僕はベットから跳び起きた、夢の中の声あれは夢であって夢でない、
そう異世界からの呼ぶ意思…

扉…それを開ければまたあのドキドキする冒険が味わえるのだ、誰も知らない僕だけの秘密。

高揚する気持ちを押さえしはし思考を巡らせる。

t o . b e .

多分此処に何か隠されている…直感で感じるのだが目を細めても見えないし…

ゲームを取り出しラストをみるが　　の所はわからない…

どうすれば良いのか、ヒントがない分色々考えを巡らせる……

やがて一つの可能性を見つけ試してみる…

それは視点のズレを利用した見えない物に焦点を合わせる事で隠れ

た物が見える絵。

しかしやった事のない僕はコツがわからず中々思うようにいかない。ゲーム機を離したり近付けたり何度も繰り返す。

どれくらいやったであろう、焦点をゲーム機の後ろ10センチぐらいに合わせるとぼんやり文字が浮かんで来た…

「王に世界樹を…」

……謎が解けた！

僕はゲームをスタートさせ最後の扉を開けるとサラとブランドの話も聞かず王へ世界樹の雫を振り掛けた………

世界が反転する…少し嫌な感覚だが前に味わった事のある、違う世界へ向かって行くあの感覚だ………

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6773h/>

to.be....

2010年10月17日03時51分発行